《Beethoven's Symphony No.9》発音・歌詞ガイド
原文・アクセント付き簡易IPA・カタカナ読み・意味

作成：氷見 健一郎

はじめに

この資料は、ベートーヴェン《交響曲第9番》の第4楽章に登場する独唱・合唱部分を練習するために、ドイツ語の原文、アクセント付き簡易IPA、カタカナによる読み方、日本語の意味をまとめたものです。

第九の歌詞は、フリードリヒ・シラーの詩《歓喜に寄す》をもとに、ベートーヴェン自身が加えた言葉を含んで構成されています。発音だけを覚えるのではなく、一つひとつの言葉が持つ意味を理解し、音楽の表情と結びつけながら練習することを目的としています。

カタカナ表記は、ドイツ語に不慣れな方が発音の全体像をつかむための補助です。ただし、日本語のカタカナだけでは、ドイツ語の母音や子音を正確に表すことはできません。慣れてきたら、カタカナだけでなく簡易IPAも確認し、指導者の発音や音源を聴きながら調整してください。

この資料の見方

各部分を、次の順番で掲載しています。

原文
実際に歌われるドイツ語の歌詞です。

カタカナ読み
発音のおおよその流れをつかむための補助表記です。

意味
原文の内容を理解し、音楽表現へつなげるための日本語訳です。

簡易IPA
ドイツ語の発音とアクセントを、国際音声記号を用いて示しています。

表記について

- 簡易IPAは、現代標準ドイツ語と歌唱時の舞台発音を基本にしています。
- [ˈ] は、その直後の音節に主要なアクセントがあることを示します。
- [ˌ] は、副次的なアクセントを示します。
- [ː] は、直前の母音を長く発音することを示します。
- [.] は、音節の区切りを示します。
- [ʔ] は、母音で始まる語の前に置かれる軽い声門閉鎖音です。歌唱ではフレーズを切りすぎないよう、滑らかに発音します。
- カタカナの長音記号「ー」は、歌唱時の読みやすさを考えて付けています。原語の母音の長さを厳密に表すものではありません。
- カタカナは発音の目安です。実際の歌唱では、子音を出すタイミングと母音を響かせる長さをパート内でそろえてください。

ドイツ語の発音確認メモ

1. 二重母音

ドイツ語の二重母音は、一つ目の母音を中心に響かせ、二つ目の母音へ急がずに移ります。

- ei／ai は [aɪ̯]
  例：`sein`＝ザイン

- au は [aʊ̯]
  例：`Zauber`＝ツァウバー

- eu／äu は [ɔʏ̯]
  例：`Freude`＝フロイデ

歌唱では、音価の大部分を最初の母音で保ち、次の子音へ移る直前に二つ目の母音を添えます。

2. ウムラウト

- ä は、日本語の「エ」に近い母音です。
- ö は、「エ」の舌の位置を保ちながら唇を丸めます。
- ü は、「イ」の舌の位置を保ちながら唇を丸めます。

例：

- schöner＝シェーナー
- Götterfunken＝ゲッターフンケン
- Brüder＝ブリューダー

日本語の「オ」や「ウ」に置き換えず、舌の位置と唇の形を分けて練習すると発音しやすくなります。

3. chの発音

ch には、主に二種類の発音があります。

- 〔ç〕
  i、e、ä、ö、ü などの後に現れます。日本語の「ヒ」に近い音ですが、舌を上あごへ近づけ、その隙間から息を流します。
  例：`nicht`、`freudig`

- 〔x〕
  a、o、u、au などの後に現れます。喉の奥で摩擦させる音です。
  例：`auch`、`Such´`

4. 語頭のstとsp

語頭の st は〔ʃt〕、`sp` は〔ʃp〕と発音します。

例：

- steht＝シュティート
- Sternenzelt＝シュテルネンツェルト
- Spur＝シュプール

5. z・w・v・j

- z は〔ts〕
  例：`Zauber`＝ツァウバー

- w は〔v〕
  例：`Welt`＝ヴェルト

- v は、多くの場合〔f〕
  例：`Vater`＝ファーター

- j は〔j〕
  日本語の「ヤ行」に近い音です。
  例：`Ja`＝ヤー

6. 語末の子音

ドイツ語では、語末の b・d・g は、それぞれ〔p・t・k〕に近い無声音になります。

例：

- Weib＝ヴァイプ
- Freund＝フロイント
- gab＝ガープ

綴りにつられて、語末を濁らせないように注意してください。

7. 語末の-ig

語末の -ig は、標準的な発音では〔ɪç〕になります。

例：

freudig
フロイディヒ
[ˈfrɔɪ̯dɪç]

8. rの扱い

歌唱では、語頭や母音の前にある r を舌先で軽く弾く、または巻いて発音することがあります。一方、語末の -er は [ɐ] に近く発音されることがあります。

例：

- Brüder＝`[ˈbryːdɐ]`
- schöner＝`[ˈʃøːnɐ]`

9. Cherubの発音

本資料では、第九の歌唱発音として次の読み方を採用します。

Cherub
ケールプ
[ˈkeːrʊp]

語末の b は無声化するため、「ケールブ」ではなく「ケールプ」に近い発音になります。

合唱練習で意識したいこと

ドイツ語の歌唱では、子音を強く発音することだけが明瞭さにつながるわけではありません。大切なのは、子音を出す位置とタイミングをパート内でそろえ、母音を同じ響きで保つことです。

特に語末子音や二重母音の移行が早すぎると、響きが短くなり、合唱全体の言葉もそろいにくくなります。長い音では母音を十分に響かせ、二重母音の後半や語末子音は、音の終わりに全員でそろえて発音してください。

この資料を発音確認の入り口として活用し、最終的には指揮者・指導者の発音、テンポ、フレージングに合わせて仕上げてください

Beethoven's Symphony No_9

【ベートーヴェンが加えた冒頭】

O Freunde, nicht diese Töne!
おお友よ、このような響きではない！

オー フロインデ ニヒト ディーゼ テーネ
oː ˈfrɔɪ̯ndə nɪçt ˈdiːzə ˈtøːnə/

Sondern laßt uns angenehmere anstimmen,
そうではなく、もっと心地よい響きを始めよう。

ゾンダーン ラスト ウンス アンゲニーメレ アンシュティンメン
ˈzɔndɐn last ʊns ˈangəˌneːmərə ˈanʃtɪmən/

und freudenvollere.
そして、もっと喜びに満ちたものを。

ウント フロイデンフォレレ
ʊnt ˈfrɔɪ̯dənˌfɔlərə/

Freude! Freude!
歓喜を！ 歓喜を！

フロイデ！ フロイデ！
ˈfrɔɪ̯də ˈfrɔɪ̯də/

【第1節　歓喜の主題】

Freude, schöner Götterfunken,
歓喜よ、美しい神々の火花よ。

フロイデ シェーナー ゲッターフンケン
ˈfrɔɪ̯də ˈʃøːnɐ ˈgœtɐˌfʊŋkən/

Tochter aus Elysium,
楽園エリュシオンから来た娘よ。

トホター アウス エリューズィウム
ˈtɔxtɐ aʊ̯s eˈlyːziʊm/

Wir betreten feuertrunken,
私たちは炎に酔いしれて足を踏み入れる。

ヴィーア ベトレーテン フォイアートルンケン
viːr bəˈtreːtən ˈfɔɪ̯ɐˌtrʊŋkən/

Himmlische, dein Heiligtum!
天上のものよ、あなたの聖域へ。

ヒムリシェ ダイン ハイリヒトゥーム
hɪmlɪʃə daɪ̯n ˈhaɪ̯lɪçtuːm/

Deine Zauber binden wieder,
あなたの魔法が再び結び合わせる。

ダイネ ツァウバー ビンデン ヴィーダー
ˈdaɪ̯nə ˈtsaʊ̯bɐ ˈbɪndən ˈviːdɐ/

Was die Mode streng geteilt;
時代の慣習が厳しく分け隔てたものを。

ヴァス ディー モーデ シュトレング ゲタイルト
vas diː ˈmoːdə ʃtrɛŋ gəˈtaɪ̯lt/

Alle Menschen werden Brüder,
すべての人々は兄弟となる。

アッレ メンシェン ヴェルデン ブリューダー
ˈalə ˈmɛnʃən ˈveːrdən ˈbryːdɐ/

Wo dein sanfter Flügel weilt.
あなたの優しい翼がとどまるところで。

ヴォー ダイン ザンフター フリューゲル ヴァイルト
voː daɪ̯n ˈzanftɐ ˈflyːgəl vaɪ̯lt/

【第2節　友情と愛】

Wem der große Wurf gelungen, 大きな幸運を得た者よ。	ヴィーム ディーア グローセ ヴルフ ゲルンゲン veːm deːr ˈgroːsə vʊrf gəˈlʊŋən/
Eines Freundes Freund zu sein; 一人の友の友となる幸運を。	アイネス フロインデス フロイント ツー ザイン ˈaɪ̯nəs ˈfrɔɪ̯ndəs frɔɪ̯nt tsuː zaɪ̯n/
Wer ein holdes Weib errungen, 愛する女性を得た者は。	ヴェーア アイン ホルデス ヴァイプ エルンゲン veːr aɪ̯n ˈhɔldəs vaɪ̯p ɛrˈrʊŋən/
Mische seinen Jubel ein! その歓声をともに交わそう。	ミシェ ザイネン ユーベル アイン ˈmɪʃə ˈzaɪ̯nən ˈjuːbəl aɪ̯n/
Ja, wer auch nur eine Seele そう、この地上でただ一つの魂でも、	ヤー ヴィーア アウホ ヌーア アイネ ズィーレ jaː veːr aʊ̯x nuːr ˈaɪ̯nə ˈzeːlə/
Sein nennt auf dem Erdenrund! 自分のものと呼べる者は。	ザイン ネント アウフ デーム エーアデンルント zaɪ̯n nɛnt aʊ̯f deːm ˈeːrdənˌrʊnt/
Und wer's nie gekonnt, der stehle そして、それが一度もできなかった者は、	ウント ヴィーアス ニー ゲコント デーア シュティーレ ʊnt veːrs niː gəˈkɔnt deːr ˈʃteːlə/
Weinend sich aus diesem Bund! 涙を流しながら、この仲間から去るがよい。	ヴァイネント ズィヒ アウス ディーゼム ブント ˈvaɪ̯nənt zɪç aʊ̯s ˈdiːzəm bʊnt/

【第3節　自然が与える歓喜】

Freude trinken alle Wesen
すべての生き物は歓喜を飲む。

フロイデ トリンケン アッレ ヴィーゼン
frɔɪ̯də ˈtrɪŋkən ˈalə ˈveːzən/

An den Brüsten der Natur;
自然の乳房から。

アン ディーン ブリュースデン ディーア ナトゥーア
an deːn ˈbryːstən deːr naˈtuːr/

Alle Guten, alle Bösen
善い者も悪い者も、すべて。

アッレ グーテン アッレ ベーゼン
ˈalə ˈguːtən ˈalə ˈbøːzən/

Folgen ihrer Rosenspur.
歓喜が残す薔薇の道をたどる。

フォルゲン イーラー ローゼンシュプーア
ˈfɔlgən ˈiːrɐ ˈroːzənˌʃpuːr/

Küsse gab sie uns und Reben,
歓喜は私たちに口づけと葡萄を与えた。

キュッセ ガープ ズィー ウンス ウント リーベン
ˈkʏsə ɡaːp ziː ʊns ʊnt ˈreːbən/

Einen Freund, geprüft im Tod;
死の試練にも耐える友を与えた。

アイネン フロイント ゲプリューフト イム トート
ˈaɪ̯nən frɔɪ̯nt ɡəˈpryːft ɪm toːt/

Wollust ward dem Wurm gegeben,
虫けらにも快楽が与えられた。

ヴォルスト ヴァールト ディーム ヴルム ゲギーベン
ˈvɔlʊst vaːrt deːm vʊrm ɡəˈɡeːbən/

Und der Cherub steht vor Gott.
そして智天使ケルビムは神の御前に立つ。

ウント ディーア ケールプ シュティート フォーア ゴット
ʊnt deːr ˈkeːrʊp ʃteːt foːr ɡɔt/

Vor Gott!
神の御前に！

フォーア ゴット！
foːr ɡɔt/

【行進曲の節】

Froh, wie seine Sonnen fliegen
喜びに満ちて、神の太陽が飛ぶように。

フロー ヴィー ザイネ ゾンネン フリーゲン
froː viː ˈzaɪ̯nə ˈzɔnən ˈfliːgən/

Durch des Himmels prächt'gen Plan,
天の壮麗な軌道を通って。

ドゥルヒ デス ヒンメルス プレヒトゲン プラーン
dʊrç dɛs ˈhɪmməls ˈprɛçtgən plaːn/

Laufet, Brüder, eure Bahn,
走れ、兄弟たちよ、自らの道を。

ラウフェト ブリューダー オイレ バーン
ˈlaʊ̯fət ˈbryːdɐ ˈɔɪ̯rə baːn/

Freudig, wie ein Held zum Siegen.
勝利へ向かう英雄のように、喜びに満ちて。

フロイディヒ ヴィー アイン ヘルト ツム ズィーゲン
ˈfrɔɪ̯dɪç viː aɪ̯n hɛlt tsʊm ˈziːgən/

【抱擁の主題】

Seid umschlungen, Millionen!
抱き合え、幾百万の人々よ！

ザイト ウムシュルンゲン ミリオーネン
zaɪ̯t ʊmˈʃlʊŋən mɪliˌoˈnən/

Diesen Kuß der ganzen Welt!
この口づけを全世界へ！

ディーゼン クス デーア ガンツェン ヴェルト
ˈdiːzən kʊs deːr ˈgantsən vɛlt/

Brüder, über'm Sternenzelt
兄弟たちよ、星空の彼方には、

ブリューダー ユーバーム シュテルネンツェルト
ˈbryːdɐ ˈyːbɐm ˈʃtɛrnənˌtsɛlt/

Muß ein lieber Vater wohnen.
慈愛に満ちた父が住んでいるに違いない。

ムス アイン リーバー ファーター ヴォーネン
mʊs aɪ̯n ˈliːbɐ ˈfaːtɐ ˈvoːnən/

Ihr stürzt nieder, Millionen?
幾百万の人々よ、ひれ伏すのか？

イーア シュテュルツト ニーダー ミリオーネン
iːr ʃtʏrtst ˈniːdɐ mɪliˌoˈnən/

Ahnest du den Schöpfer, Welt?
世界よ、創造主を感じるか？

アーネスト ドゥー ディーン シェプファー ヴェルト
ˈaːnəst duː deːn ˈʃœpfɐ vɛlt/

Such' ihn über'm Sternenzelt!
星空の彼方に創造主を探せ！

ズーフ イーン ユーバーム シュテルネンツェルト
zuːx iːn ˈyːbɐm ˈʃtɛrnənˌtsɛlt/

Über Sternen muß er wohnen.
星々の彼方に、創造主は住んでいるに違いない。

ユーバー シュテルネン ムス エーア ヴォーネン
ˈyːbɐ ˈʃtɛrnən mʊs eːr ˈvoːnən/